

# CASBEE神戸ver.3

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 建築（新編）2016年版 | 使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-6D\_NC\_2016(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神戸空港サブターミナル(仮称)	階数	地上2F
建設地	神戸市中央区神戸空港1	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)、法22条区域	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,570時間/年(想定値)
建物用途	事務所・集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025/3/31 予定	評価の実施日	2024年1月25日
敷地面積	24,493 m <sup>2</sup>	作成者	中野謙一
建築面積	14,436 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	18,435 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
①参照値 100%  
②建築物の取組み 81%  
③上記+②以外の 81%  
④上記+ 81%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.2

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

### 3 CASBEE神戸の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
<b>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</b>  3.2	<b>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</b>  3.8 <b>Q-2/2.4 信頼性</b>  3.8	<b>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</b>  4.0
<b>配慮の概要</b> 高齢者、車いす使用者、視覚障がい者が安全に移動できるように廊下幅員や出入口の幅員を確保し、施設内の利用経路では段差を設けない計画としている。また、敷地内外構においても安全な移動を確保するためスロープ、手摺などを計画した。	<b>配慮の概要</b> 構造耐力の余裕度を1.25以上確保する計画とした。	<b>配慮の概要</b> 外観のデザインおよび色彩、外構サインにおいて既存メインターミナルおよび周辺建物との調和に配慮した。また北側に望む六甲山の景観を活かし、連続性を持たせた植栽計画とした。
<b>その他の配慮事項</b>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**神戸空港サブターミナル(仮称)**

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.2</b>	
<b>Q1 室内環境</b>					0.40	-	-	<b>3.2</b>	
<b>1 音環境</b>				<b>1.8</b>	0.15	-	-	<b>1.8</b>	
1.1 室内騒音レベル				<b>1.4</b>	0.40	1.0	-		
1.2 遮音				<b>2.8</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.91	1.0	-		
2 界壁遮音性能				1.0	0.09	1.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	-	1.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				1.0	-	1.0	-		
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20	1.0	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.1</b>	0.35	-	-	<b>3.1</b>	
2.1 室温制御				<b>3.3</b>	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	1.0	-		
2 外皮性能		冷暖フリーPAC、4管式の採用		3.0	0.25	1.0	-		
3 ゾーン別制御性				4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	1.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	1.0	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.5</b>	0.25	-	-	<b>2.5</b>	
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30	-	-		
1 昼光率				1.0	0.60	1.0	-		
2 方位別開口				-	-	1.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				<b>1.0</b>	0.06	-	-		
1 昼光制御				1.0	1.00	1.0	-		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.19	1.0	-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.45	1.0	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.7</b>	0.25	-	-	<b>4.7</b>	
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		基準を満たし、他のVOC放散量の少ない建材を全面的に採用		5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				<b>4.0</b>	0.30	-	-		
1 換気量		全館空調の居室:30m3/h人以上、その他:基準換気量の1.2倍以上		4.0	0.33	1.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	1.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		外気取入れ・排気位置に配慮		5.0	0.33	1.0	-		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		出到着ロビー系統空調機にCO <sub>2</sub> 制御を採用		5.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙室の設置		5.0	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	<b>3.4</b>	
<b>1 機能性</b>				<b>3.8</b>	0.40	-	-	<b>3.8</b>	
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	0.07	1.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.07	1.0	-		
3 バリアフリー計画		建築物移動円滑化基準および交通バリアフリー適合		3.2	0.86	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>4.6</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				2.0	0.07	1.0	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.07	-	-		
3 内装計画		明確なコンセプト設定、パースによる検証		5.0	0.86	-	-		
1.3 維持管理				<b>4.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚・防錆に配慮した内外装計画		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		清掃に配慮した設備計画		4.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.8</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		基準に対し、25%増の耐震性を有する		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>2.7</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				1.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外ダクトにステンレスダクト使用		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>3.8</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		災害時に優先運転系統を発電機回路		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水型器具・中水利用の採用、緊急排水槽の設置		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.3</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	1階:5.8m、2階:5.5m	5.0	0.13	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ		2.0	0.87	1.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	2.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	設備更新ルートの確保	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペースの確保	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		景観に配慮した形態・色彩・植栽計画	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	展望デッキ・多目的スペースの設置、防犯性に配慮した植栽計画	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPIm=0.53	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEIm=0.77	<b>3.4</b>	0.50	-	-	<b>3.4</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>4.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSの導入	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>4.1</b>	0.20	-	-	<b>4.1</b>
<b>1.1 節水</b>		節水型衛生器具の導入	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>4.3</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用システムの導入	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	再生水利用	5.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.4</b>	0.60	-	-	<b>3.4</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		床材、カーテン	4.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		鉄骨造、内装下地にLGSを採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		仕上材用接着剤、シーリング材、塗料に適用	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	アクアモエンNEO(発泡剤:HFO)を使用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出量は一般的な建物よりやや少ない	<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			-	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.67	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水貯留槽の設置、透水性舗装材の採用	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	